
初春

妄音ルウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初春

【Nコード】

N2878R

【作者名】

妄音ルウ

【あらすじ】

「smilejapan」参加作品です。

(前書き)

「SmileJapan」用に少し内容を改変しました。

「春ですよー」

二月の冷たい風に吹かれながら、俺達は小さな公園のベンチにいた。

そこで彼女は唐突に、本当になんの突拍子もなくそう言った。

「いや、まだ二月も始まったばかりだけど……」

まだまだ寒い二月、翌週には雪が降ると天気予報は言っていたっけ？

「え？だって今日節分なんだよ？」

さも当然のことのようにそう言った彼女は、心底不思議そうな顔をして俺を見た。

「そうだけど、二月だぞ。まだ寒いじゃないか」

「寒さは関係ないの、節分だから今日から春なんだよ」

「なんだそれ、節分はただの風習だろう」

はぁ……と溜息をついて俺は彼女に言う。

「それこそ間違いだよ、節分はね？季”節”の”分”け目だから”節分”なんだよ？」

「……それは暦の上での、目安としてのだろ」

そう言えば、何故自分達はこんなところでこんな話をしているの
だろうか？

まあいいか

「つまり昔の人は今日から春だと言った訳ですよ」

「お前な、今と昔じゃ気候が違っただろうが」

そもそもだ

「なんで春を急ぐ？何があるわけでもないだろ」

それに俺は冬が好きだ、彼女も好きだと記憶している

なら何を急ぐ必要がある？まあ暖かくなるのはいいんだが……

「急ぐよー？だってやっと五回目だもん」

五回目……？

「そろそろ限界だよ、寒くて寒くて保ちそうにないもん」

「そんなに寒いか？」

「うん、って忘れてる……？」

「何をだよ、何か約束した覚えはないぞ。」

「ええ……………」

沈んだ声で呟く彼女をよそに立ち上がる。

「寒いつてんなら早く帰ろうか」

「……………そう……………だね」

……………はあ

もうちょつと雰囲気が欲しかったんだがなあ、曇天の下寂れた公園でなんて嫌だったんだが

……………ま、俺達らしいかな？

「そら、そんなに寒いならそれ着けとけ」

そう言つて、小さな箱を投げる。

「え……………？わわっ、急に投げないでよ！つてこれ……………」

「たかだか指一本分だが、ましになるだろ？」

言つて、気恥ずかしさからすぐに振り向いて歩き出す。

「……………まつ、待ってよ！右手は寒いんだから！」

そんなことを言つて俺の左腕に巻き付く。

「さて、帰りますか?」

「その前にコンビニよろ?」

「ああ、そうだな。それじゃあ……」

こんななら、寒くても春と認めてやっていいかもしれない。

少なくとも、俺の左腕は暖かいしな?

(後書き)

「Smile Japan」参加としてシリーズ化の予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2878r/>

初春

2011年10月9日23時39分発行